

＜第4回 昔々の成木＞ 吹上トンネル その2

前は、切通しと3世代のトンネルについて書きましたが、後から吹上トンネルについてお話をいただいたので、追記します。

○初代吹上トンネルは険しい道

初代吹上トンネル（明治トンネル）は前回紹介した通り、東京で初めての「道路（人馬や荷車が通る道）トンネル」でした。トンネルから坂下橋までは急斜面になっていて、迂回しないと荷車などは往来できなかったようです。

ただし、人の場合は近道があり、図1の○付近には沢を越える吊り橋があったようです。

当時を知っている方からは、「1mぐらいの幅の吊り橋があって、そこを通っていたが、先が急坂で自転車に乗れず、担いで登った」との話がありました。

当時の自転車は重かったでしょうに、すごくパワフルです。（ちなみに帰りはヘアピン道の方を通ったそうです。※世代によって諸説あります）

○住民の願いの道

成木市民センター内の図書館で、渡辺尚志編著『近代移行期の名望家と地域・国家』（2006年刊）所収「第三章 吹上隧道開通運動と川口昌蔵」という一冊の本を見つけました。

川口昌蔵さんは、吹上隧道（トンネル）開通に大きな役割を果たした方だそうです。

明治25年（1892）の成木村予算は1122円（現在：およそ2244億）で、そのうち教育費が64%を占めており、成木村は教育に力を入れていたようで、道路工事は村民の寄付によるものが多かったようです。

公務員（小学校教員）の初任給は8～13円ぐらいです。現在の公務員の初任給は18～20万円とすると、当時の1円は現在の20,000円以上の価値があったことになります。

初代吹上トンネル（明治トンネル）は様々な調査や請願の結果、東京府（郡部会）から明治31年（1898）に5年継続予算として、高さ60尺切下工事、前後道路工費13625円、橋梁新架費994円、敷地買上献納金1050円が決まりました。（総額は15671円：現在だと3億超）

土地は、献納（無償で譲渡）が多かったようで、各村の方々がトンネルと道を作るために、大切な土地を譲ってくれたことが、工事成功につながったようです。

村の名望家（名声や人望を兼ね備えた人）から寄付も多くあったにも関わらず、工事途中から予算も足らず、住民が安い賃金で働くこともあったようです。

川口さんに至っては、開通運動の後（1906）に残された借入金金を自身の宅地や畑を売却して対応したとの記録があるそうです。

多くの方々の努力によって地域が発展していったのですね。感慨深い話です。

【出典】『近代移行期の名望家と地域・国家』『第三章 吹上隧道開通運動と川口昌蔵』

福沢徹三執筆 2006

【監修】地域講師 若林 博司



図1